令和五（二〇二三）年度　追手門学院大手前高等学校　入学試験問題　国語

一　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

音楽の才能を持つ生徒が集まる音楽科のクラスにやってきた転校生「岬洋介」は、音楽の時間に「棚橋先生」に言われて弾いたピアノで、圧倒的な演奏を見せる。本文はそれに続く場面である。

それにしても不思議な時間だった。

演奏中は一時間ほどにも感じたのに、終わってみれば一瞬だったような気もする。こんな風に時間の感覚が(ア)喪失するなんて、大ホールでのクラシックコンサートを聴いた時以来久しくなかった。

よくよく考えてみれば棚橋先生が岬に演奏を(イ)促した時、まさかピアノソナタを全楽章丸ごと弾き果たすとは予想もしなかったに違いない。それでも途中で中断させなかったのは、岬の腕前を知っているはずの棚橋先生までもがその演奏に魅了されたからだろう。

悔しいが認めざるを得ない。

岬のピアノはそういうピアノだったのだ。

僕は彼が隣に座る前に言ってやった。

「①君はひどいヤツだな」

「えっ」

岬は驚いて僕を見返した。

この野郎、何をとぼけてるんだ。

「あんなピアノ弾けるのに、威張れるほどのものじゃないって？　人を馬鹿にするのもいい加減にしろ」

「いや、あの。本当に威張るような演奏じゃなくて……えっと、何が気に障ったのか分からないけど、怒らせたのなら謝る。ごめん」

岬は慌てたように頭を下げる。とても演技でとぼけているようには見えない。

そして思い当たった。

今までのやり取りの中で、岬が自分の演奏を下手だと言ったことは一度もなかった。威張れるほどのものじゃないというのも謙遜のようなものだ。全部、僕の勘違いでしかなかった。

演奏を聴けば分かる。岬は自分の演奏が優れているとは思っていない。鍵盤の上に両手を翳した時も最後の一音を(ウ)ハナった後も得意げな顔は一切せず、弾けて当然のように振る舞っていたではないか。

途端に怒りが消えた。

それにたとえ岬がどれほど鼻持ちならないヤツだったとしても、②あの演奏を聴いた後ではどうでもいいことのように思える。

正直に言おう。僕は一度聴いただけで、すっかり岬のピアノのファンになってしまったのだ。

「そうやって素直に謝っちゃうのが、また君らしいなあ。んー、今のは冗談だよ」

「③冗談？　本当に？　怒ってないんだね？」

「あー怒ってない、怒ってない。ていうか自分が嫌になった。色んな意味で」

「え。それはそれで気がかりだな。何が嫌になったんだい」

岬は心配そうに僕の顔を覗き込む。

やっぱりぶん殴ってやろうかと思った。

レッスンが終わり、僕と岬が教室へ戻る最中、後ろから声を掛けてきた者がいた。

「よお、やるじゃないか」

岩倉が岬の肩を摑んだ。いつものように携帯オーディオのイヤフォンを耳に挿したままだ。こいつはトイレに行く時もそれを外したことがない。

「音楽室の燥ぎ方で只者じゃないとは思ったけど、別の意味で只者じゃなかったんだな」

「ど、どうも」

「でもよ、転校生」

「岬です」

「お前、ますます浮くぞ」

岬は不思議そうな顔をした。

「どうして？」

この答えに岩倉は面食らったようだった。④それを見て僕は少し溜飲を下げる。演奏についてのやり取りで、僕だけは岬の特徴の一つを理解したからだ。

おそらく岬洋介という男は徹底的に無自覚なのだ。

令和五（二〇二三）年度　追手門学院大手前高等学校　入学試験問題　国語

ピアノ演奏だけではなく、自分の(エ)ヨウシ、立ち居振る舞い、発言、全てにおいて彼自身は自意識が欠如している。良く言えば天衣無縫、悪く言えば天然、だから自分が周囲から浮いているなどとは露ほどにも思っていない。

岩倉は珍獣を見るような目をしてから言葉を継ぐ。

「この前は(オ)キタイが外れてとか言ったけど、あれ取り消すわ。お前の転校してきた目的って、※ベヒシュタインだったんじゃねえのか」

岬が口を開こうとしたその時だった。

「凄かったよ、岬くんのピアノ！」

いきなり僕たちの間に春菜が割り込んできた。

「もう何て言うか、降参。いったいあんなピアノ、どこで習ったの。ヤマハとかカワイの学校じゃないんでしょ？」

「うん。前に住んでいた近所にピアノの講師がいたんだよ」

「へえ、やっぱりそうなんだ。岬くんの※運指（うんし）って変な癖ついてなかったから、そうじゃないかって思ってたんだ」

「おい春菜。今は俺が話してるんだぜ」

「いいじゃないの、別に。どうせ智生、ピアノ弾かないんだし」

春菜に押し出されるような形で岩倉は弾かれる。一瞬、僕たちを睨（にら）んだかと思うと、ぷいと顔を背けて向こうに行ってしまった。

（中山七里『どこかでベートーヴェン』より）

※ベヒシュタイン……有名なピアノのブランド。

※運指……特定の楽器を演奏するときに、どの指と手のポジションを使うかを選択すること。

問一　傍線部(ア)～(オ)の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直して答えなさい。

問二　二重傍線部「天衣無縫」と同じ意味の語として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　唯我独尊　　イ　天真爛漫　　ウ　天下一品　　エ　眉目秀麗

問三　傍線部①「君はひどいヤツだな」とあるが、「僕」はなぜこのように言ったのか。四十五字以内で説明しなさい。

問四　傍線部②「あの演奏を聴いた後」とあるが、「あの演奏」の説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　時間の感覚が喪失するほど誰もが魅了されるすばらしい演奏。

イ　棚橋先生と一緒にピアノソナタを丸ごと弾き果たすほどのレベルの高い演奏。

ウ　最後の一音まで大切に弾くことで、ピアノのうまさを伝える演奏。

エ　演奏技術は高いが、自信のなさが聞き手に伝わってしまう演奏。

問五　傍線部③「冗談？　本当に？　怒ってないんだね？」とあるが、このときの「岬」の気持ちとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　「僕」が怒っていることに気づいており、自分のどこに原因があるのかを聞き出したい様子。

イ　「僕」が怒っていると言ったことにショックを受け、驚きをごまかそうとしている様子。

ウ　「僕」が怒っていないと言ったことに安心しながらも、不安になって確かめている様子。

エ　「僕」が怒っていないことはわかっているが、からかわれたことに腹を立てている様子。

問六　傍線部④「それを見て僕は少し溜飲を下げる」の「溜飲を下げる」は「気分がすっきりする」という意味であるが、なぜ「僕」は「溜飲を下げ」たのか。理由を四十字以内で説明しなさい。

問七　この文章は二つの場面に分けることができる。後半の場面はどこから始まるのか。後半の最初の五字を抜き出しなさい。

令和五（二〇二三）年度　追手門学院大手前高等学校　入学試験問題　国語

二　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①人間がコンピューターに勝つためにはどうしたらよいか。

その方法は「考える」こと。コンピューターは「記憶する」ことにかけては敵なしだが、「考える」ことを知らない。よく、プロの棋士と碁を打ってコンピューターが勝ったなんていうニュースを耳にする。コンピューターが考えているわけじゃない。知識として大量のデータを記憶しているのである。

本当の意味で「考える」ということは、日本人だけでなく、現代を生きる人間にとっても極めて難しい。［　A　］、われわれは「知識」をもっているからだ。

知識がある程度まで増えると、自分の頭で考えるまでもなくなる。知識を利用して、問題を処理できるようになる。借り物の知識でなんとか問題を解決してしまう。

もちろん知識は必要である。何も知らなければただの無為で終わってしまう。ただ、知識は多ければ多いほどいいと喜ぶのがいけない。良い知識を適量、しっかり頭の中に入れて、それを基にしながら自分の頭でひとが考えないことを考える力を身につける。

ところが、である。ふり廻されないためには、よけいな知識はほどよく忘れなければならない。しかし、この「忘れる」ことが意外に難しい。

学校の生徒で、勉強において「忘れてもいい」と言われたことはあるだろうか？　もちろん、今の学校教育ではそんなことは言わない。ともすれば「忘れてはいけない」と教え込む。すくなくとも、「どうしたらうまく忘れるか」などという学校はないはずだ。

しかし実は、「覚える」のと同じくらいに、「忘れる」ことが大事で、［　B　］難しい。この「忘れる」ことによって、人間がコンピューターに勝っているのである。コンピューターは「覚える」のが得意な反面、「忘れる」のはたいへん苦手。人間のように、うまく忘れるということができない。

そもそも未知なものに対しては、借り物の知識などでは役に立たないのが当たり前だ。それまでの知識から外れた、わけのわからないモノゴトを処理、解決するには、ありきたりの知識では役に立たない。いったん捨てて、新しい考えをしぼり出す力が必要となる。そういう思考力を身につけられれば、コンピューターがどんなに発達しようと、人間が存在価値を見失うことはないだろう。

人間はずっと「忘れる」ということをおそれてきた。とにかく忘れてはいけないと思い込んでいる。急に「忘れよ」などと言われたらひどくとまどう。たいていの人は、覚え方は上手でも忘れ方は下手である。

なにもそれほど難しく考える必要はない。自然に忘れる。②一番簡単なのは「夜よく眠る」ことである。

前の晩に、頭に知識を一〇〇入れて寝たとする。朝になって、その知識がそのまま残っていてほしいと願う人があるかもしれないけれど、そんなことがあっては大変。頭が壊れてしまう。正常な頭なら、前夜の知識はガタ減りに少なくなっている。なぜか？　睡眠中に忘却をすすめる働きがはたらくからである。この忘却の時間はレム睡眠と呼ばれる。人によって回数に違いがあるが、ひと晩に数回おこる。

起きている間の人間の頭の中へは、ａいわゆる知識以外にも、雑多な刺激が常に入り込んでくる。そのようにして流れ込んできたものの不要だと思われるものを、レム睡眠の時にはねのけているのだ。

人間の頭は、自分にとって「どうも大事なものらしいぞ」というものは自動的に忘れないようにできている。当面は頭の中にないほうがいいと思ったモノを、レム睡眠は整理する。朝、目を覚ました時、たいていの人がなんとなく清々しい気分になっている。レム睡眠のおかげで頭の中の掃除が行われた後だから、頭の中のゴミ出しが済んだ後だからである。

この自然忘却作用は本当に大事にしなければならない。夜よく眠れない人は、大至急、眠れるようにしないと頭が悪くなってしまう。昼、詰め込むよりも、夜、不要なものをすてる方が大事である。心身の健康のためにも忘却作用を大切にしｂたい。

けれど、勉強しすぎて知識をたくさんとり入れると、一日一回の睡眠だけでは足りない。ゴミがいっぱい溜まる。レム睡眠でゴミ出しをしてもなお、有害なゴミが頭の中に残る恐れがある。そんな場合、どうしても目が覚めている間に、よけいなことを忘れる努力をしなくてはならなくなる。有害なものは、なんとしても忘れないといけない。

そうかと言って、一日じゅう寝ているわけにはいかない。では、起きている間はどうしたらいいか、これはなかなか工夫が必要である。③その点、学校はうまいことをしてきた。それは、異なる授業を立て続けにやるということ。英語の次に国語、その次は社会、音楽。一見、支離滅裂のようだけれど、実はこれは非常に④理にかなっていたのだ。なぜなら、前の授業で詰め込まれた知識を、ｃまったく異なる次の授業によって、レム睡眠と同じほどではないが、忘れることができるからだ。

［　C　］三〇年ほど前、こういう時間割に批判的な教師があらわれた。違った教科をつづけて教えては記憶効率が下がると考え、同じ内容を一括して教えれば学習能率が上がるとした。そして、「午前中はすべて英語」「午後はすべて理科」というように、休みもなくぶっ続けに授業を行うことにした。

令和五（二〇二三）年度　追手門学院大手前高等学校　入学試験問題　国語

結果はどうなったか？　思いもかけず学力が急落してしまったのである。それは忘れることの必要を忘れた、からだ。異なる授業をやることだけでなく、授業と授業の間の休み時間もたいへん大事だったのだ。

休みに教室に残ってノートなんか整理したりする生徒がいると「感心だね～」などと言う人がいるが、トンデモない。休み時間はとにかく外に飛び出して、思いきり体を動かして汗をかくくらいにする。そうすれば、教室に戻ってきた時には、「［　　］」となる。それこそが理想的な頭の状態。その後の授業の間は集中できる。

いろんなことをして忙しくしなければダメ。同じことをだらだらと続けていても、頭はよく働かない。頭がさぼってしまって学習効果もあがらない。とにかく[d]忙しくすること！　適当に忘れて頭をスッキリさせる。覚えて、忘れる、この切り替えがたいへんに重要なのである。

（外山滋比古『何のために「学ぶ」のか　知ること、考えること』より）

問一　波線部を文節に分けた場合の文節数と、単語に分けた場合の単語数をそれぞれ答えなさい。

問二　二重傍線部a～dの単語の品詞名としてそれぞれ適切なものを次のア～コの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　動詞　　イ　名詞　　ウ　形容詞　　エ　形容動詞　　オ　副詞
カ　連体詞　　キ　接続詞　　ク　感動詞　　ケ　助動詞　　コ　助詞

問三　［A］～［C］に当てはまる語句としてそれぞれ適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ところが　　イ　しかも　　ウ　つまり　　エ　あるいは　　オ　なぜなら

問四　傍線部①「人間がコンピューターに勝つためにはどうしたらよいか」とあるが、人間がコンピューターに勝つために必要な力はどのような力か。四十字以内で答えなさい。

問五　傍線部②「一番簡単なのは『夜よく眠る』ことである」とあるが、それはなぜか。四十字以内で答えなさい。

問六　傍線部③「その点、学校はうまいことをしてきた」とあるが、「うまいこと」とはどういうことか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　休み時間は汗をかくくらいに体を動かし、勉強するのに必要な体力をつけていること。
イ　休み時間にノートの整理や復習をさせないことで、家庭での学習時間を増やしていること。
ウ　休み時間も含めて毎日様々な教科の授業を行い、自習時間を多くとっていること。
エ　休み時間をしっかり取りながら、前の時間と異なる授業を立て続けに行っていること。

問七　傍線部④「理にかなっていた」の意味として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　思い通りになっていた　　イ　物事の筋道にあっていた
ウ　理屈っぽくなっていた　　エ　意地になっていた

問八　［　　］に当てはまる言葉として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　さっきの時間の宿題、いつしよう　　イ　さっきの時間のノート、写させて
ウ　さっきの時間は何だったっけ？　　エ　さっきの時間、楽しかったね

令和五（二〇二三）年度　追手門学院大手前高等学校　入学試験問題　国語

三　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

竜門に住む法師（竜門の聖）は親しくしている猟師がいつも鹿を射殺すことに心を痛めていた。ある夜、猟師は照射というたいまつを使った猟に出かけた。次の文章はそのときの話である。

大和国に竜門とAいふ所に、聖ありけり。住みける所を名にて、竜門の聖と①そ言ひける。その聖の親しく知りたりける男の、明け暮れ鹿を殺しけるに、照射といふことをしけるころ、Bいみじう暗かりける夜、照射に出でにけり。

鹿を求めありくほどに、※1目をC合はせたりければ、「②鹿ありけり」とて、※2押し回し押し回しするに、確かに目を合はせたり。※3矢比に回し取りて※4火串に引きかけて、※5矢をはげてD射むとて、弓振り立て見るに、この鹿の目の間の、例の鹿の目の間よりも近くて、目の色も変はりたりければ、③あやしと思ひて、弓を引きさしてよく見るに、なほあやしかりければ、矢をEはづして火取りて見るに、鹿の目にはあらぬなりけりと見て、起きば起きよと思ひて、近く回し寄せて見れば、※6身は一ぢやうの皮にてあり。「なほ鹿なり」とて、また射むとするに、なほ※7目のあらざりければ、ただうちにうち寄せて見るに、法師の頭に見なしつ。こはいかにと見て、Iおり走りて火うち吹きて、「ししをり」とて見れば、この聖、※8目うちたたきて、鹿の皮を引きかづきて添ひ臥したまへり。

「こはいかに、かくてはおはしますぞ」とⅡ言へば、ほろほろとⅢ泣きて、「わぬしが制することを聞かず。いたくこの鹿を殺す。我鹿に代はりて殺されなば、さりとも少しはとどまりなんと思へば、かくて射られんとして居るなり。□惜しう射ざりつ」と※9のたまふに、この男、ふしまろび泣きて、「かくまで※10おぼしけることを、※11あながちにしはべりけること」とて、そこにて、刀を抜きて、Ⅳ弓たち切り、※12胡籙皆折り砕きて、※13髻切りて、やがて聖に具して法師になりて、聖のおはしけるが限り、聖に使はれて、聖失せたまひければ、またそこにぞ行ひてゐたりけるとなん。

（『宇治拾遺物語』より）

（注）
※1　目を合はせ……獲物（鹿）と視線を合わせ
※2　押し回し押し回しする……たいまつを振り回して鹿をおびき寄せる。
※3　矢比に回し取りて……矢で射ることができる距離に近づいて、
※4　火串……地面に突き刺してからたいまつを引っかけ、固定する道具。
※5　矢をはげて……矢を弓にあてがって、
※6　身は一ぢやうの皮にてあり……確かに鹿の毛並みを身につけている。
※7　目のあらざりければ……目の様子が普通と違っていたので、
※8　目うちたたきて……まばたきをして、
※9　のたまふ……おっしゃる
※10　おぼし……お思いになる
※11　あながちにし……強引に狩りを続け
※12　胡籙……矢を入れて持ち運ぶ道具。
※13　髻切りて……髪の毛を切って、

令和五（二〇二三）年度　追手門学院大手前高等学校　入学試験問題　国語

問一　波線部A～Eを現代仮名遣いに改め、すべてひらがなで答えなさい。

問二　二重傍線部Ⅰ～Ⅳについて、動作の主体をそれぞれ次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を何度使ってもよい。

ア　聖　　イ　鹿　　ウ　男（猟師）　　エ　作者

問三　傍線部①「ぞ」について、このような語があると、文末は終止形からどのような活用形に変わるか。適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　連体形　　エ　已然形

問四　傍線部②「鹿ありけり」とあるが、結局それは何だったのか。本文中から抜き出して漢字一字で答えなさい。

問五　傍線部③「あやしと思ひて」とは「不思議に思って」という意味であるが、なぜこのように思ったのか。三十五字以内で答えなさい。

問六　本文の内容と一致するものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　聖が止めるのも聞かず男は猟師を続けていたので、ある日鹿とまちがって聖を弓で射てしまった。

イ　聖が命がけで伝えようとしたことに男は深く心を打たれて、髪の毛を切って僧になる決意をした。

ウ　聖が不思議な行動をしたことは男にはとうてい理解できなかったが、泣きながら聖の無事を喜んだ。

エ　聖の危険な行動に男は腹を立てたが、自分が鹿を殺す罪を重ねていたことを悟り法師になった。

問七　この文章『宇治拾遺物語』は鎌倉時代に成立した説話集であるが、これと同じ時代に成立したものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　源氏物語　　イ　竹取物語　　ウ　平家物語　　エ　おくの細道

問題は以上です。